

【教育目標】英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野だより

令和3年10月26日発行 第39号 発行者:中野区立中野中学校

諦めなかった2人の野球人生

甲子園とプロ野球で輝きを放った2人がグラウンドを去った。1人は「怪物」と騒がれた西武の松坂大輔投手、1人は「王子」と愛された日ハムの斎藤佑樹投手。同年代の選手はそれぞれ「松坂世代」「ハンカチ世代」と呼ばれ、共に時代を代表するスターだった。

松坂大輔投手は、横浜高エースとして'98年の甲子園で春夏連覇。夏の決勝では史上2人目となるノーヒット・ノーランを達成。プロ1年目から3年連続で最多勝を挙げるなどの華々しい活躍をし、'07年に大リーグに移籍。米国でも、1年目15勝、2年目18勝と期待通りの活躍をするが、その後はけがとの長い闘いが続いた。'14年に日本球界に復帰するが、自分の追い求めるボールを投げられないことを理由に今年で引退を決意。最終登板での球速は最高で118キロ。コントロールも定まらず、四球を出して23年間のプロ生活に幕を下ろした。

松坂投手は会見で、「諦めの悪い自分を褒めてやりたい。最後まで諦めなければ報われる、勝てる、喜べる」と野球人生を振り返った。その原点は、夏の甲子園でのPL学園戦。延長17回まで250球を投げ、諦めなければ報われることを体現し、それが日米での華々しい活躍の土台となった。「PL戦は何十回も見直した。松坂さんは僕たちの世代なら全員が憧れた」。広島カープの元エース前田健太投手の言葉だ。

日本球界復帰後は、往年の輝きこそなかったが、彼の輝かしい野球人生は色あせることはない。

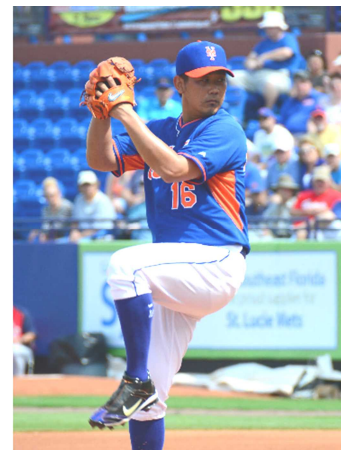
斎藤佑樹投手が早実のエースとして駒大苫小牧の田中将大投手と投げ合い、引き分け再試合となった'06年夏の甲子園決勝戦は、球史に残る名勝負だった。試合中、ハンカチで汗を拭う爽やかな姿は「ハンカチ王子」と称され、社会現象になった。早大進学後も力投し、低迷していた大学野球の救世主となり、「持っている男」と言われた。プロ野球ドラフトでは4球団が1位指名。プロ1年目に6勝、2年目は開幕投手として完投勝利を挙げるなど活躍した。しかし、その後はけがに苦しみ、期待通りの活躍はできず、先日33歳で現役最後の登板を終えた。

スターゆえの重圧や、田中将大投手など華々しく活躍する同年代のライバルに差をつけられる焦りもあったろう。その斎藤投手が引退セレモニーでこう述べた。

「諦めてやめるのは簡単。『どんなに苦しくても、がむしゃらに泥だらけになって、最後までやり切る』、監督に言われ続けた言葉である。どんなに格好悪くても、前だけを見てきた。思い通りにはいかなかったが、やり続けたことに後悔はない」

11年間での通算成績は15勝26敗。一流と称される選手と比較すれば平凡な数字だったかもしれない。それでも、最後まで華のある存在であり続け、野球ファンの裾野を広げた。

「最後まで諦めなければ報われる、勝てる、喜べる」、「諦めずに、やり続けたことに後悔はない」自信をもってそう言える2人の生きざまに学ぶべきことは多い。



松坂大輔投手(上)と斎藤佑樹投手(下) ウィキペディアより

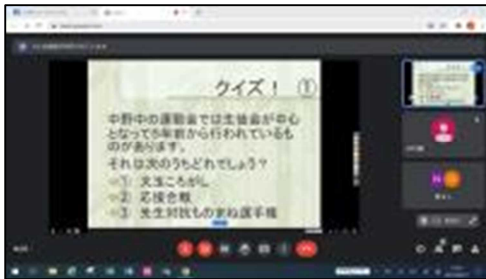
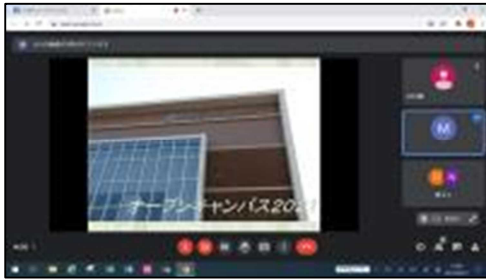


第2回オープンキャンパス

～オンラインで開催～

第2回オープンキャンパスを9月21日(火)に行いました。緊急事態宣言下であったため、小学生を迎えることができず、オンライン(Google Meet)での開催となりました。当日は、生徒会役員が作成した映像を桃園第二小学校、桃花小学校、平和の森小学校の3校に配信し、中野中学校の行事に関するクイズや、標準服や体操着の紹介など、工夫して取り組んでくれました。

なお、今回できなかった部活動体験については、後日希望者を対象に行う予定です。日時や参加申込等は、各小学校を通じてお知らせします。



【Google Meet の配信画面】



生徒が映像に登場し、学校紹介しました！

～小学生からの感想～

オープンキャンパスを通して、中学校でも他の人と一緒に協力する行事がたくさんあることが分かりました。

中学校で楽しみにしていることは部活動です。走ることも投げることも大好きなので、早く中学生になりたいと思っています。

中野中学校で楽しみなことは体育の学習です。理由は中学生の体育ではどんなことをするのかすごく気になるからです。中学生になることをすごく楽しみにしています。

ぼくは、中学2年生の時のスキーの合宿が楽しみです。3日の内にみんなできるよになると言っていたので安心しました。

一番楽しみにしてるのは給食です。兄がおしかったといっていたので、給食が楽しみです。

心のこもったお手紙をありがとうございました。皆さんの入学を心待ちにしています。

《部活動の記録》

<ソフトテニス部>

区新人大会

女子団体 2位

女子個人 1位：春木、中村ペア

2位：木村、小高ペア

3位：土岐、菊池ペア

<野球部>

区秋季大会：3位

<バドミントン部>

区新人大会：女子団体優勝

生徒会役員選挙を実施

～新メンバーでスタート～

生徒会役員の任期満了に伴う生徒会役員選挙が10月5日(火)に行われました。当日はまず立会演説会を行い、8名の立候補者が、体育館に集まった2年生と各教室で映像を見る1・3年生に向けて、それぞれの考えや取り組みたいことの演説を繰り広げました。

立会演説会に続き、実際の選挙の形と同じように、身分証(生徒手帳)を提示して投票用紙を受け取り、投票台で記入の後、投票箱に一票を投じました。

これまで生徒会役員として中野中学校を引っ張ってくれた鈴木会長をはじめ、前役員の活躍に感謝するとともに、今回選ばれた新役員の一層の活躍に期待します。



【体育館での立会演説会】



【演説のようす】



【1年生の投票のようす】

【新生徒会役員】

会 長 近藤(2-C)
副会長 本橋(2-C)
総 務 古塩(2-A) 栃澤(2-B)
井澤(1-A) 田村(1-A) 住田(1-B)

前期終業式&後期始業式

前期最終日の10月8日(金)に前期終業式を、後期初日の10月12日(火)に後期始業式を実施しました。緊急事態宣言は解除されましたが、感染症対策のため、一学年のみ体育館に集まり、残りの学年は教室でオンラインで行いました。

終業式では3年生が体育館に集まり、これまでの学校生活を振り返るとともに、講話「酸っぱい葡萄」について話をしました。式の終了後、前期専門委員長が活動報告を行い、後期へ引き継ぎました。

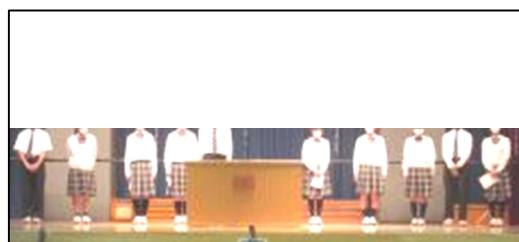
また、始業式では、2年生が体育館に集まり、後期から学校の中心となって活躍してもらうために、講話「人を向上させる3つの考え」について話をしました。



【終業式】



【酸っぱい葡萄】



3つの考え

諦めない、興味や関心をもつ、先を見通して行動する

